

審査の結果の要旨

氏名 戸ヶ里 泰典

本研究は健康社会学者 Aaron Antonovsky により提唱され、WHO におけるヘルスプロモーションの基礎理論として評価されている健康生成論および健康生成モデルにおける中核概念であるストレス対処能力・健康保持能力概念である sense of coherence (SOC) を規定する社会的要因を、20~40 歳の成人男女を対象として、Antonovsky の理論と先行研究から導かれる仮説に基づいて明らかにすることが目的とされた。そのため、まず、大規模多目的一般住民調査において使用可能な SOC スケールを開発し、ついで SOC の形成・発達上重要な役割を果たすと考えられる思春期における社会経済的環境、学業上の成功および成人期の学歴や雇用形態も加味した職業を中心とする社会経済的地位、および配偶関係やサポートネットワークを中心とする社会関係といった要因と現在の SOC との関連性を検討した。分析にあたっては、男女別に、次いで 20 歳以上 25 歳未満、25 歳以上 35 歳未満 35 歳以上 40 歳以下の 3 群で検討し、下記の結果を得た。

1. 新たに開発した 3 項目版 SOC スケール(SOC3-UTHS)の α 係数は.83~.86 であった。また、収束妥当性を意味する SOC3-UTHS と SOC13 との相関係数値は.49 であった。SRH と調査 1 の SOC13 との相関係数は.36、SOC3-UTHS とは.29、調査 2 の SOC3-UTHS とは.22 であった。CES-D と調査 1 の SOC13 との相関係数は-.68 であったことに対し、SOC3-UTHS との相関係数は-.38 にとどまった。MHI5 は調査 1 では SOC13 との相関係数は.66 に対し、SOC3-UTHS とは.38 で、調査 2 の SOC3-UTHS とは.26 にとどまった。他方で、調査 1 における HHI と SOC13 との相関係数は.67 に対し、SOC3-UTHS とは.62 とほぼ同水準の相関が得られた。SOC13 との収束妥当性の値はやや低く、SOC13 自体が感情ドメインを多分に含むとされる先行研究を踏まえると、今回感情ドメインを排すべく測定を行なったことから SOC3-UTHS とのやや低い相関に関しては、今後更なる妥当性の検討が必要という課題は残るが一定の妥当性があると考えられた。したがって、概ね信頼性妥当性が認められ、一般住民調査においても本スケールは使用可能と考えられた。
2. 男性、女性ともに、また世代によらず思春期における家庭の経済的状況が豊かであったこと、学校における学業上の成功体験があったことは、その後の学歴、職業、現在のサポートネットワークによらず、直接現在の SOC との関連性を持っていた。また、父親の職業、家庭が経済的に貧しかったことは、現在の SOC に対して直接の関連性は持たず学業成績あるいは学歴を介して間接的に影響していた。他方で学歴は基本的には職業、現在の経済的状況を介して SOC に影響する間接的な関連性のみを有していた。
3. 職業と SOC の関係については、非正規雇用のブルーカラー職と無業者であること

4. サポートネットワークに関しては、男性、女性によらず、世代によらず、人間関係の相談相手の範囲が少ないほど低い SOC であるが、男女ともに、また、世代別では 20~24 歳の世代以外では仕事や勉強の相談相手の範囲が狭いほど低い SOC となっていた。しかし、仕事を紹介してくれる相手の範囲と SOC とは線形の関連が見られなかった。さらに、男女ともにまとまったお金を貸してもらい範囲が広いほど SOC が高いという関連性がみられたが、世代別では 35 歳以上の群のみにとどまることが明らかとなった。

以上より、本論文は、回収率がやや低めであることによる選択バイアス、回顧的な設問による情報バイアス、思春期時の健康状態やライフイベント等の交絡バイアスを考慮する必要があるものの、わが国において初の一般成人を対象とした大規模一般住民調査による SOC の形成要因、規定要因に関する研究論文である点、また、世界的に見ても、SOC の形成・規定要因に関する研究蓄積は少なく、期待されている中で、思春期ならびに成人期の汎抵抗資源である社会的環境と SOC との関連性を明確に示すことができた点で、重要な研究といえる。特に、性、年齢を問わず、思春期における家庭の経済的状況や学業成績の自己評価にみる成功経験が直接 SOC と関連している点、現在の職種と就業形態のうち、非正規雇用のブルーカラー職と 25-34 歳の世代の非正規雇用のホワイトカラー職においても低い SOC が規定されていることは、本研究において初めて実証され、他の要因に関しても数少ない先行研究の結果を支持する結果が得られた点は、Antonovsky の理論が一部検証されたことに加え、SOC の形成をはかる方策の開発に資する重要な結果であるものと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。